

第 69 回沖縄県高等学校野球春季大会

令和 4 年 3 月 20 日（日）～ 4 月 3 日（日）

主 催： 沖縄県高等学校野球連盟

共 催： 琉 球 新 報 社

後 援： 沖縄県教育委員会

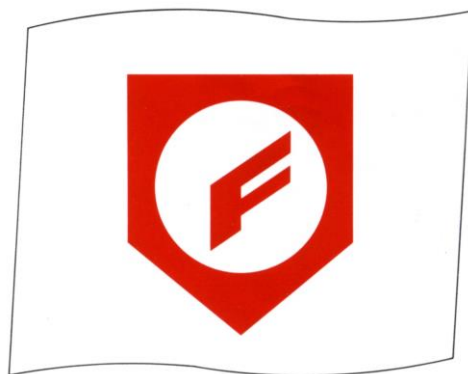
朝 日 新 聞 社

会 場： Agre スタジアム 北 谷

沖縄セルラースタジアム那覇

アトムホームスタジアム宜野湾

大 会 要 項



2022.2.22

一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 69 回沖縄県高等学校野球春季大会

大会要項

主催 沖縄県高等学校野球連盟
共催 琉球新報社
後援 沖縄県教育委員会
朝日新聞社

1. 期 日 令和 4 年 3 月 20 日 (日) ～ 4 月 3 日 (日)
 2. 会 場 Agre スタジアム北谷 北谷町字美浜 2 番地
沖縄セルラースタジアム那覇 那覇市奥武山 5 2 番地
アトムホームスタジアム宜野湾 宜野湾市真志喜 4 - 2 - 1
 3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている大会参加エントリー用紙に必要事項を記入し、沖縄県高野連事務局まで FAX にて申し込むこと。※不参加の学校も含め、加盟校は全校 FAX して下さい。
 4. 申し込締切り 令和 4 年 **2 月 24 日 (木)** 正午までにエントリー用紙を FAX にて下記まで送信する。
沖縄県高野連事務局 FAX 098-890-3158
 5. 選手資格証明書 沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている選手資格証明書を、**13 部** (押印はコピーした後に行うこと) 作成し、**令和 4 年 3 月 16 日 (水) 正午** (必着) までに下記宛に郵送にて提出して下さい。
選手資格証明書提出後は、選手変更はできません。
◎印なども忘れずに記入して下さい。パソコンなどで独自に作成した証明書を提出した場合は、再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。
提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜 2-25-1 県立宜野湾高等学校内
沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛
- ※郵送とあわせて (同期日までに)、データ (Excel ファイル) を、高野連事務局の電子メールアドレスまで電子メールにて添付送信して下さい。
6. 抽 選 会 令和 4 年 **3 月 3 日 (木)** 午後 2 時 リモートによる抽選会。
リモート配信会場：石川高校コンピュータ教室
①参加校は各学校からリモートで参加する。
②リモートでの参加が困難な学校は、原則として大会本部による代理抽選とするが、リモート配信会場の石川高校にて抽選を行うこともできる。事前に (2 月 24 日 (木) 正午までに) 大会本部に連絡する。
③リモートによる参加者は原則として責任教師、監督、キャプテンとするが、当該校の状況により各学校で判断する。
石川高校で抽選会に参加する場合は、正副責任教師または監督のいずれか一人。
④抽選にあたってはシード制を採用する。(興南・前原・沖縄水産・北山)
 7. 大会諸経費 ①入場整理券 (大人 600 円、中高生 200 円) をもって充当する。
②中高生の団体割引については、引率者を含む 20 名以上は 100 円とする。
③剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の時は同運営費から充当する。

8. 大会組織及び運営
- ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。
 - ②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。
 - ③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱する。審判委員は県高野連審判部が担当する。

9. 申込み後の選手登録変更
- 今大会は、選手資格証明書提出後の選手変更は受け付けません。
※コロナ感染に係る選手変更については別途定める。

10. 表彰及び派遣
- ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯を授与する。
 - ②準優勝校へは賞状、準優勝楯を授与する。
 - ③本大会の優勝校は、宮崎県で開催される第150回九州地区高等学校野球大会【4月23日(土)～4月28日(木)】に出場させる。

※注 ①本大会の準優勝校は4月23日(土)・24日(日)に行われる第33回八重山交流試合に派遣させる。
②本大会の3位校は4月16日(土)・17日(日)に行われる第18回宮古交流試合に派遣させる。
(第51回招待試合は新型コロナウイルスの影響により中止)

11. 補欠校順位戦
- 決勝戦の前に、準決勝で敗退した2校による「九州大会派遣補欠校順位戦」を行う。
ただし、天候等の状況によっては、決勝戦を優先させて実施することもある。
補欠校順位戦について
- ①優勝校及び準優勝校が、コロナウイルス感染により九州大会欠場となった場合の補欠順位を想定し実施する。
 - ②決勝戦の日の9:00開始予定。
 - ③タイブレークは10回から適用する。
 - ④タイブレーク以外は、準決勝までと同じ方法(コールドゲーム等)で行う。
 - ⑤優勝校の九州大会欠場が生じなければ、順位戦での勝利校を3位校とし、第18回宮古交流試合に派遣させる。
九州大会欠場の事態が生じた場合、宮古交流、八重山交流の実施や派遣校等については、主催者が協議して決定する。
 - ⑥当該2校の順位は、第104回全国高等学校野球選手権沖縄大会の抽選会においては、くじを引く順番とし、ブロックやパートの固定は行わないこととする。

12. 開 会 式 **実施しません**

13. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行なう。

第 69 回 沖縄県高等学校野球春季大会

細則

1. 試合規則は、2022年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和4年4月2日現在で満18才（平成16年=2004年4月2日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第1試合の出場チームは、試合開始60分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師1名、副責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名の計24名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること(高野連スタッフシャツも可)。
8. 試合前のシートノックは7分間。ノック時の補助選手は5名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒または白のスパイクおよびシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。但し、シートノックの補助をするときはユニフォームを着用すること。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ずSGマーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット・**マスク**（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったなら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは1個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は25名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 2. 手指消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保など感染拡大防止に努めること。
 3. プラスバンドでの応援、声を出しての応援や指笛、管楽器の使用を禁止する。
太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを1個とする。
 4. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃と消毒に協力する。
 5. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、タオル等を振り回しての応援は禁止。
 6. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは13回、無死1塁・2塁からとし、打順は12回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
 - ①5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
5. 降中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。

※継続試合については決勝戦でも適応する。またその詳細は別途定める。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。

・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。

 - ①打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - ②塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。

(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

第 69 回沖繩県高等学校野球春季大会

開催細則

1. 開会式 実施しません

始 球 式 (今大会は実施しません)

2. 閉会式

- 1 決勝戦終了後、優勝チーム、準優勝チーム、大会役員、審判委員、来賓で行う。
- 2 決勝戦が終わり次第、両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列する。
- 3 大会役員、審判委員、来賓および両校の校長、責任教師（正副）、監督はバックネット前に整列する。

閉会式次第

司 会 新 垣 健 一 (高野連総務部長)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---------|---------|
| 1 | 開 | 会 | | | |
| 2 | 成 | 績 | 発 | 表 | |
| 3 | 表 | | 彰 | | |
| 4 | 大 | 会 | 長 | 川 畑 三 矢 | (高野連会長) |
| 5 | 共 | 催 | 団 | 体 | あいさつ |
| 6 | 国 | 旗 | 並 | び | に |
| 7 | 閉 | 会 | 宣 | 言 | |
- 大会 副 会 長 玻 名 城 泰 山 (琉球新報社代表取締役社長)
- 大会 副 会 長 外 間 昌 繁 (高野連副会長)

※閉会式後、優勝、準優勝チームはダイヤモンドを一周する

※閉会式の内容は、新型コロナウイルス感染状況により変更もあり得ます。

第 69 回沖繩県高等学校野球春季大会 競技役員

顧問 知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞
 狩俣 幸夫 砂川 恵重 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇
 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出
 上原 昇 平良 章次
 金城 弘昌 (県教育委員会教育長) 木村 司 (朝日新聞社那覇総局長)
 遠藤 孝康 (毎日新聞那覇支局長)

参加校校長 城間 敏生 (県教育庁保健体育課長)

大会長 川 畑 三 矢 (県高野連会長)
 大会副会長 新 城 英 人 (県高野連副会長)
 屋 良 淳 (県高野連副会長)
 外 間 昌 繁 (県高野連副会長)
 玻名城 泰 山 (琉球新報社代表取締役社長)
 木 村 司 (朝日新聞那覇総局長)

運営委員長 中 村 健 (県高野連理事長)
 運営委員長補 上 間 理 博 (県高野連副理事長)
 運営副委員長 町 原 尚 忠 (県高野連常任理事)
 渡久地 政 国 (県高野連常任理事)
 照 屋 圭二郎 (県高野連常任理事)
 上 原 健 吾 (県高野連常任理事)
 名渡山 直 子 (県高野連常任理事)

運営委員
 総務部部長 新垣 健一
 総務部副部長 瀬底 智樹、徳山 篤史、國吉 大志
 技術部部長 川上 琢也
 技術部副部長 田里 友哉、米須 清祐、川平 優次
 審判部部長 多嘉山 太
 審判部副部長 西銘 健一、山城 明男、島袋 俊哉
 記録情報部部長 神里 大 一
 記録情報部副部長 仲間 広美、佐久原 大志、伊藝 修策

競技役員

	城間恒寿	中村敦	藤木淳平		宮里淳	城間克也	狩俣和也
	中本昌弥	津山嘉都真			真玉橋長郎	森本裕也	照屋実理
	砂辺紗綾	高良耕平			松元輝	濱元良人	
	當銘樹	比嘉智二	中地さくら		山城和也	上原正昭	
	西村レオナ	知念邦睦	宮城佳輔		下地克也	宮城隼人	山田義二
	安富大志	岸本拓馬	玉城幸哉		山城芳則		
	外間勝				大城英健	比嘉公也	伊志嶺大吾
	宮里義浩	新垣隆夫	宮城岳幸		神山哲	喜瀬民男	崎浜秀哉
	森澤征一郎	上原達也	鳥羽弘康		吉元嘉邦	大川基樹	糸数辰信
	新川将太	伊波大吾	東佳奈子		親川聖	津波章太	
	前濱範一	津留直樹			町田宗毅	金武孝代	
	藏本哲雄	東亮	大濱方志		大城康成	洲鎌弘樹	仲川和充
	仲宗根寛史	仲與根清十郎			仲里武史	石塚年勝	
	大嶺祐介	仲里真澄	慶田城剛		嘉数節	伊禮隼	岸本亘史
	大浦陸	島袋春樹	兼城翔太		天願恒	照屋拓己	
	大城貴宏	喜舎場正太	伊禮直浩		親泊達也	具志堅興律	
	西野僚真	宜志富薫	與那城吾郎		翁長淳	瀬名波幹智	
	宮里健二	知名淳			長濱隆史	町田幸男	
	知念正仁	田原伸繁	玉元大輔		神里正太	大城一基	上原忠
	浦添広志				川満翔太	仲宗根聖子	比嘉和也
	上地愛美				呉屋大輔		
	津波直仁	與儀正	豊原啓人		眞玉橋元博	山城元子	伊保珠菜
	上原拓	川満亨	富里くらら		山内一尚	大城浩二	
	比嘉秀策	嶺井政彦	當銘葵		宮里友也	平良隆訓	糸数昌之
	仲吉誠	大蔵宗元	嘉陽宗雄		大城貴史	大城盛隆	仲里裕太
	福中直人	奥田誠吾	山城学		平良栄二	栗國優貴子	
	池宮城朗				玉城英之	前川等	仲里裕樹
	比嘉繁遵	新垣隆			伊舎堂英樹	赤堂秀馬	伊集幹郎
	仲里健	金城聡	平良博志		小波津尚志		
	大嶺真	城間直美	前泊聡		新里拓	兼島兼哲	小林大隼
	神里武弥	野原潤一			上原八重子	新里和久	渡久山玄介
	安里利光	我喜屋優	砂川太		内間忍	大浜英康	
	池間忠彦	島袋洋奨			友利佳史	眞玉橋治	崎山留美
	藤井智	阿波連仁			大城康弘	岸本幸彦	
	金城幸伸	川平優次	砂川歩		前城大悟	神山剛史	瀬名波敦
	新田伸	山鹿勝廣			浅利賢宏	五十嵐康朗	田中康二
	富川盛章	安里大作	岸本敬	外間一先	仲本賢一郎	末吉昇一	仲松志朗
	金城朋奈	中山慎	多和田真	伊計千夏	福原修	森みさき	伊良波泰

第 69 回沖繩県高等学校野球春季大会

審判委員

審判委員長 多嘉山 太 (県高野連審判部部長)
 審判副委員長 西銘 健一 (県高野連審判部副部長)
 山城 明男 (県高野連審判部副部長)
 島袋 俊哉 (県高野連審判部副部長)
 審判幹事 平良 章次 島袋 恭一 国仲 吉川 町田 幸男
 譜久村 淳一 安富 薫 比嘉 安孝 玉代勢 秀人
 座喜味 治 国仲 直彦 玉城 健

審判委員 沖縄県高等学校野球連盟 審判部

多嘉山 太	山城 明男	島袋 俊哉	西銘 健一
平良 章次	島袋 恭一	国仲 吉川	町田 幸男
譜久村 淳一	安富 薫	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	喜納 清一
西村 洋	真壁 朝善	屋宜 充	宮里 一
我喜屋 宗彦	澤岷 安邦	喜友名 功	上原 浩
嘉数 正重	島袋 英治	兼次 博	大城 幸光
仲本 盛和	金城 明	玉城 誠	大浜 拓郎
平田 英樹	平良 朋広	下里 大弥	西野 僚真
野原 大輝	西江 大成	山田 健登	嘉陽 宗雄
福原 修	又吉 忠	具志堅 興律	嶺井 政彦
天願 恒	平良 博志	野原 潤一	津留 直樹
中村 健	外間 一先	田原 伸繁	嘉数 節
親川 聖	平良 隆訓	眞玉橋 元博	新田 伸
前川 等	伊良波 泰	吉元 嘉邦	金城 達也
知名 淳	島袋 春樹	宮里 淳	奥田 誠吾
大川 基樹	照屋 圭二郎	上間 理博	石塚 年勝
喜瀬 民男	照屋 拓己	外間 勝	眞玉橋 長郎
浦添 広志	川満 亨	町田 宗毅	島袋 善之
知念 正仁	大蔵 宗元	金城 聡	長島 誠
安座間 竜作	大城 康成	東 亮	徳山 篤史
田里 友哉	大城 盛隆	玉城 幸哉	平良 栄二
川上 琢也	山城 和也	濱元 良人	安富 大志
國吉 大志	大城 康弘	大城 浩二	上原 健吾
宮城 岳幸	津山 嘉都真	渡久地 政国	仲里 真澄
神里 大一	宮里 健二	山里 貞俊	安里 大作
上原 拓	高良 耕平	豊原 啓人	佐久原 大志
洲鎌 弘樹	伊藝 修策	仲本 賢一郎	安富 勇人
大嶺 祐介	當銘 樹	金城 裕介	宮里 友也
與那城 吾郎	岸本 拓馬	大城 一基	川平 優次
大嶺 真	赤堂 秀馬	松元 輝	